

ちょっとお洒落な 大人のねこマガジン

猫びより

5月号

MAY.2021 No.117

偶数月12日発売

2021年5月1日発行(寄数月1日発行)第20巻第05号

特集

肉球礼賛

谷川俊太郎「俺、つしま」/北海道 自然とともに生きる猫 / 岩合光昭「房総半島」

新美敬子「モンテネグロ」/あの人と猫「マーガレット・バーク＝ホワイト」

from Japan

猫と暮らせる「ペット共生型 障がい者グループホーム」

「障がい者グループホーム」とは、障がいのある方が共同生活を送る小規模住居のこと。マンションや戸建てなどを生活の拠点とし生活援助を受けながら、孤立を防ぎ、自立を目指すための福祉サービスの一つだ。今回紹介する「わおん」「にゃおん」は、動物と暮らしたいと思う人向けの「保護犬・保護猫と暮らすペット共生型 障がい者グループホーム」。

「人間福祉と動物福祉の追求」を企業理念とし、「障がい者グループホームの不足」、「空き家問題」、「ペット殺処分問題」の解決をコンセプトに、全国474拠点ほぼすべてのホームに保護猫や保護犬が暮らしている。

保護猫がグループホームで暮らすまでの流れは、愛護団体などに保護された猫や犬が運営会社の「アニスピホールディングス」の本社オフィスに引き取られ、しばらく社内での「キャットルーム」で気ままに生活する。人との暮らしに慣れたら「猫を迎えたい」と

申し出のあったホームに、動物スタッフとして派遣される。都内で保護猫が暮らす直営のホームは2ヶ所あり、今回は黒猫のジジ（1歳♂）が暮らす「わおん 障がい者グループホームお花茶屋」（東京都葛飾区）にお邪魔した。ジジのいるスペースは、利用者みんなが集まる2階のリビングで、利用者やスタッフに囲まれ、のんびり暮らしている。

「利用者さんの中には、人と会話がのちよっと苦手だったり、気持ちがあまく表現できない方もいますが、ジジとの『心の会話』のセラピー効果は絶大で、自然と笑顔になりますね。最近では、『ジジが可愛い』だけでなく、『1匹で寂しいのではないかと？』『体調は大丈夫？』などと親心を抱く方もおられます」と、施設管理者の藤田良子さん。

ジジの世話の中心はスタッフで、トイレ掃除などは、気が付いた利用者も手伝う。健康管理は、系列の「CARE PET

S」所属の動物看護師の定期訪問や、体調面で心配なことがあれば管理者が動物看護師に連絡し、指示をもとに動物病院を受診させるなど、万全の体制だ。「人間の福祉」と「動物の福祉」がみごとにマッチした「ペット共生型グループホーム」は、保護猫や犬と、ハンディを抱える人が幸せに共生するモデルケースといえそうだ。

（文）西宮三代 写真提供：アニスピホールディングス



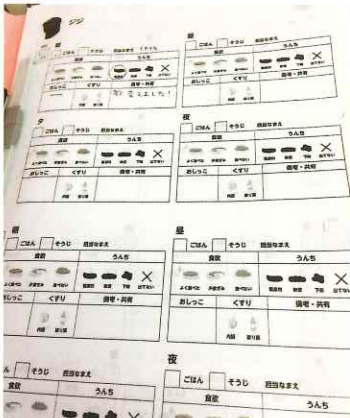
A



B



C



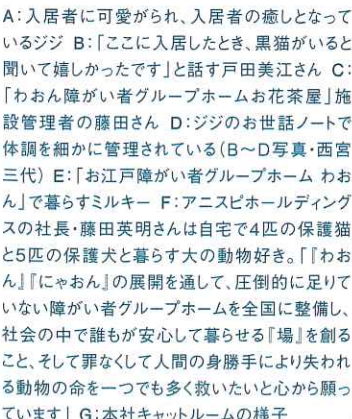
D



E



F



G

A:入居者に可愛がられ、入居者の癒しとなっているジジ B:「ここに入居したとき、黒猫がいると聞いて嬉しかったです」と話す戸田美江さん C:「わおん障がい者グループホームお花茶屋」施設管理者の藤田さん D:ジジのお世話ノートで体調を細かに管理されている(B~D写真・西宮三代) E:「お江戸障がい者グループホーム わおん」で暮らすミルキー F:アニスピホールディングスの社長・藤田英明さんは自宅で4匹の保護猫と5匹の保護犬と暮らす大の動物好き。「『わおん』『にゃおん』の展開を通して、圧倒的に足りない障がい者グループホームを全国に整備し、社会の中で誰もが安心して暮らせる『場』を創ること、そして罪なくして人間の身勝手により失われる動物の命を一つでも多く救いたいと心から願っています」 G:本社キャットルームの様子

ペット共生型 障がい者グループホーム「わおん」「にゃおん」お問合せ:株式会社アニスピホールディングス TEL0120-949-615 <https://anispi.co.jp/waon>